

# 「滋賀県の能登半島地震能登北部 保健所におけるDHEAT活動より」

～保健所における  
市町村支援に必要なこと～

滋賀県健康医療福祉部  
健康しが推進課  
加賀爪 雅江

1

## 本日の話

1. 滋賀県DHEAT派遣の状況
2. 滋賀県DHEATの活動経過
3. DHEAT派遣から考える  
保健所における保健医療福祉調整本部の意義
4. DHEAT派遣から考える  
保健所における市町支援の役割（発災時・平時）

2

# 1. 滋賀県DHEATの派遣の状況

	派遣時期	派遣先	チーム構成
第1班	1月4日～1月11日	1月4日 石川県庁 1月5日～ 能登北部保健所	4人 医師1 保健師1（保健所統括保健師） ロジ2（薬剤師、放射線技師）
第2班	1月11日～1月19日	能登北部保健所	5人 医師1 保健師2（1人は保健所統括保健師） ロジ2（獣医2）
第3班	1月19日～1月25日	能登北部保健所	5人 医師1 保健師2（1人は保健所統括保健師） ロジ2（放射線技師、獣医）
第4班	1月25日～2月1日	輪島市	6人 医師2 保健師2（1人は保健所統括保健師） ロジ2（薬剤師、事務）

3

## 能登北部保健所管内の概況（1）



能登半島の先端部に位置する輪島市、  
珠洲市、穴水町、能登町の2市2町  
を所管



4

# 能登北部保健所管内の概況 (2)

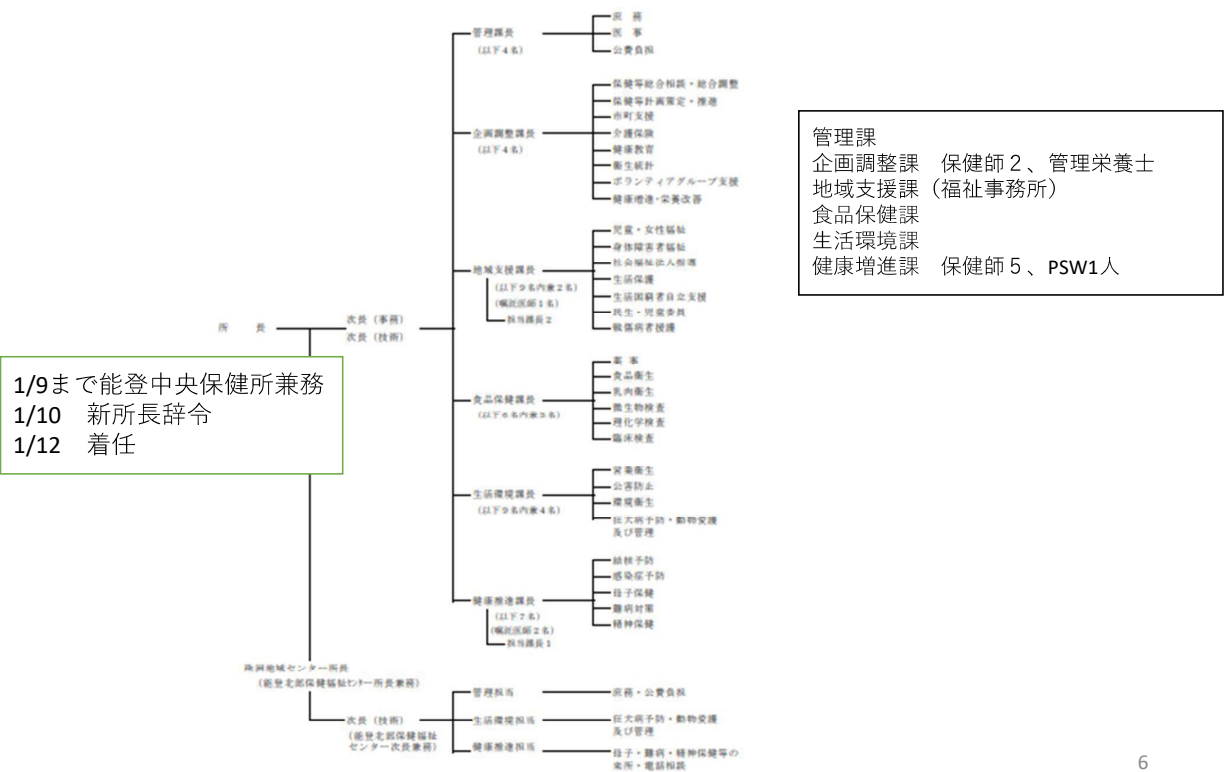
令和4年10月1日現在

区分 市町	面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数	総人口			一世帯 あたり 人員	人口密度 (1km <sup>2</sup> 当たり)	前年との 人口の増 減 (人)
			総数	男	女			
石川県	4,186.21	473,543	1,117,827	542,612	575,215	2.36	267.03	-7,319
管内計	1,130.00	24,622	57,631	27,213	30,418	2.34	51.00	-1,811
輪島市	426.32	9,655	23,022	10,940	12,082	2.38	54.00	-851
珠洲市	247.20	5,387	12,197	5,618	6,579	2.26	49.34	-366
穴水町	183.21	3,271	7,580	3,643	3,937	2.32	41.37	-168
能登町	273.27	6,309	14,832	7,012	7,820	2.35	54.28	-426

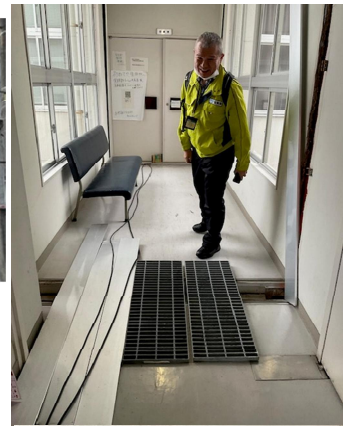
資料：能登北部保健所事業報告書

# 能登北部保健所の組織体制

令和4年5月1日現在



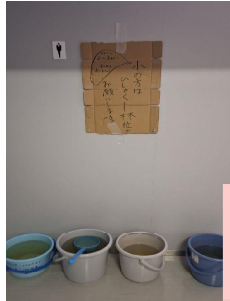
# 能登北部保健所の被災状況



駐車場の後方陥没↑

建物に隙間→

断水でトイレは川の水↓



石川県庁からの指示は「保健所の機能回復」  
災害時の保健所の位置づけが不明なまま支援開始

## 2. 滋賀県DHEATの活動経過

目的  
被災者の二次健康被害の最小化のために  
能登北部保健所(1/5~1/24)  
輪島市(1/25~2/1)  
の機能回復を支援する

	第1班 (1/5~11)	第2班 (1/12~18)	第3班 (1/19~25)	第4班 (1/26~2/1)
各班の目標	①保健所との間で円滑な支援・受援の関係性の構築	①保健所負担の軽減(庶務的用務を含む) ②保健所が実施する輪島市市街地を除く地域支援への応援 ③管内2市2町のDHEATの緩やかな連携の維持、その中で、先進事例等の横展開を図る(変更)2市2町DHEAT活動の連携構築・調整	①保健所の負担軽減 ②地域支援への応援 ③圏域内DHEAT活動の連携構築 ④保健所業務への着地に向けた準備	①輪島市保健医療福祉調整本部の調整 ②輪島市の保健活動の支援(門前地区を含めた市全体を意識) ③輪島市職員の負担の軽減(輪島市・能登北部保健所の職員の思いや方針を共有)
体制	4人:1拠点 医師1、保健師1、ロジ2	5人:一時2拠点(門前) 医師1、保健師2、ロジ2	5人:1拠点 医師1、保健師2、ロジ2	6人:2拠点(調整本部) 医師2、保健師2、ロジ2

## 滋賀県DHEATの活動経過

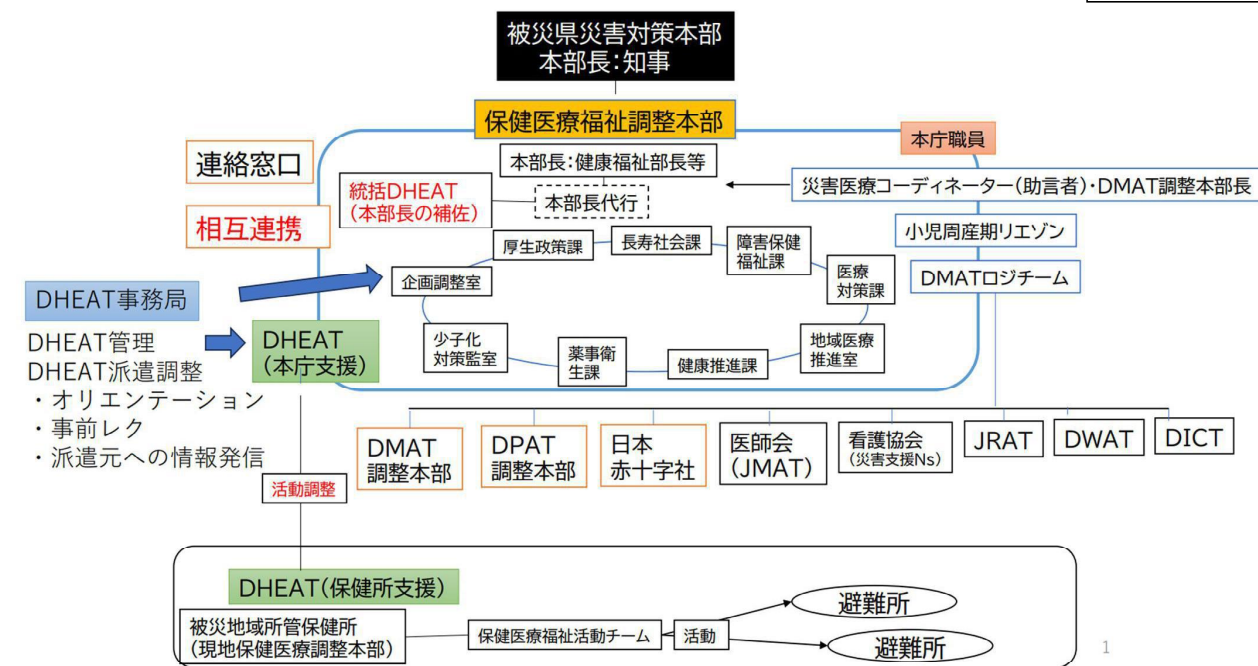
2024.2.1時点

	第1班 (1/5~11) 能登北部保健所	第2班 (1/12~18) 能登北部保健所	第3班 (1/19~25) 能登北部保健所	第4班 (1/26~2/1) 輪島市
保健所内環境整備	■被災後片付け	■トイレ、手洗い設備管理、 応援者ルールづくり等		■ラジオ体操
保健所BCP	■保健所の機能の把握	<保健業務のうち要継続は精神 個別支援・感染症のみ：支援不要>	■市町保健事業再開支援の検討	能登北部保健所が2市2町を支援 (DHEATによる調整無)
DHEAT活動	立ち上げ ■活動場所づくり ■輪島市の状況把握 ■保健所との情報共有 方法/連携方法調整 ■保健所の方針把握 ■災害支援組織の把握 <方針・本部機能不明確> ■保健師チーム等受援体制の支援 ■熊本DHEATとの協働本部設営	実働 ■保健所との情報共有、保健所の方針確認(新所長含め) ■各DHEATの活動把握・調整(2市2町別) ■保健所・DHEATのミーティング設定(保健所・熊本・滋賀) ■災害支援組織における滋賀県DHEATの位置づけ明確化 ■輪島市門前総合支所の支援・組織体制見直し・受援支援、一時期人員補充・保健師ミーティング設定	実働 ■各DHEATの活動把握・調整(2市2町別) ■目指す保健所機能の意見調整 <医療提供体制調整の主体市町域：市・町とする> ■輪島市分DHEAT業務(熊本県)の引受準備 ・全地域(門前、町野以外)の要配慮者訪問の計画・導入・結果評価計画、保健師チーム組織改編 ・門前地区におけるDHEAT活動の見直し検討 ・孤立解消した町野地区への保健師派遣に向けた準備 ・活動見える化資料作成 ・保健医療アクセス一覧作成 ・地区診断マップ作成	実働・引継 ■輪島市DHEAT業務 ・市の保健医療福祉調整本部機能の運営調整、市および保健所、他団体との調整 ・在宅および避難所の要支援者の特定のための保健師チームによる訪問活動調整。要支援者名簿作成、避難所アセスメント別表作成。 ・保健師派遣チーム(門前地区を含む)のコーディネートにかかる調整 →後続県(三重県・愛媛県DHEATへ引継

9

## 石川県保健医療福祉調整本部 組織図

R6.1.8

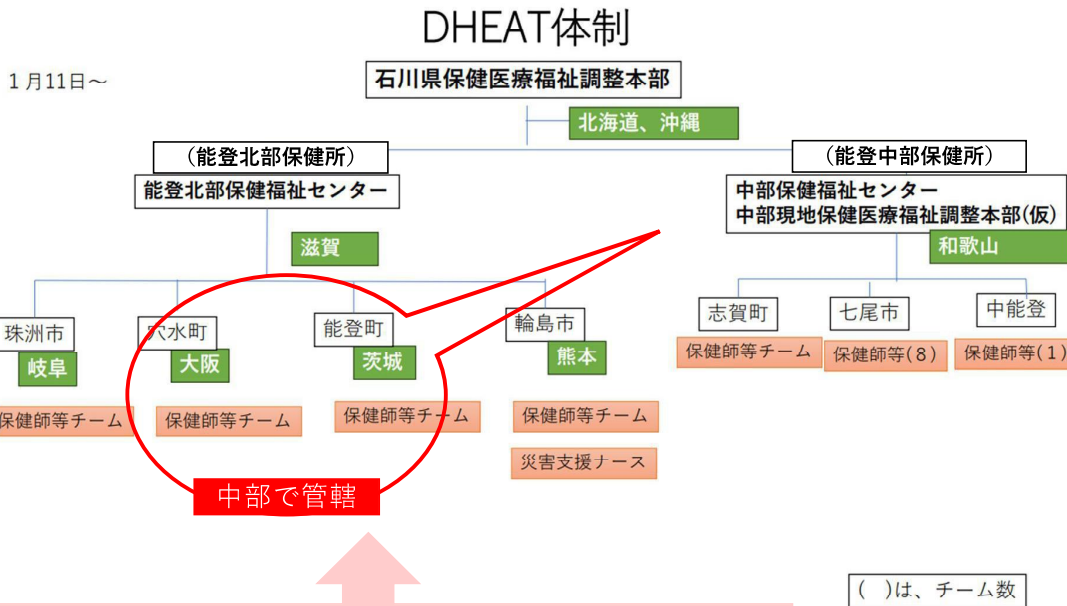


1

現地保健医療福祉調整本部はなかった！(組織・機能ともに)

10

# DHEAT体制



各市町単位の保健医療福祉調整本部とDHEAT派遣  
管轄のねじれ (DMAT主導のため)

## 滋賀県DHEATの目標と活動経過

2024.2.1時点

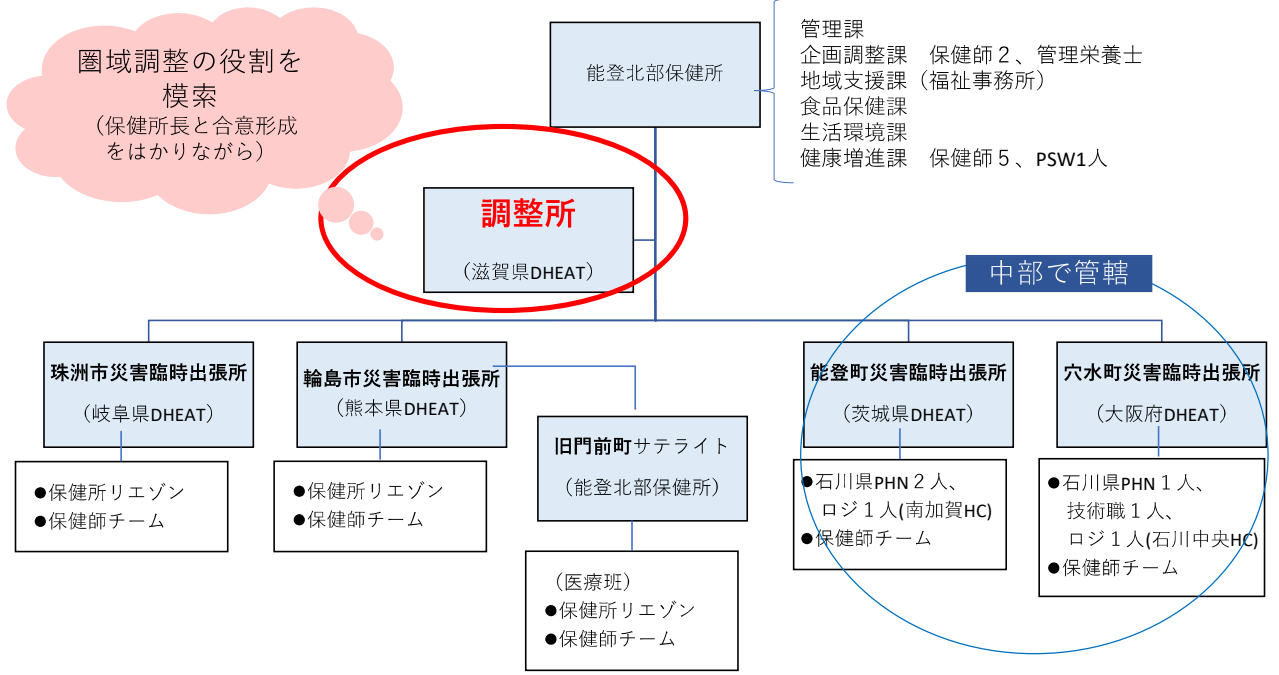
**目的**  
被災者の二次健康被害の最小化のために  
能登北部保健所(1/5～1/24)  
輪島市(1/25～2/1)  
の機能回復を支援する

	第1班 (1/5～11)	第2班 (1/12～18)	第3班 (1/19～25)	第4班 (1/26～2/1)
各班の目標	①保健所との間で円滑な支援・受援の関係性の構築	①保健所負担の軽減(庶務的業務を含む) ②保健所が実施する輪島市市街地を除く地域支援への応援 ③管内2市2町のDHEATの緩やかな連携の維持、その中で、先進事例等の横展開を図る(変更)2市2町DHEAT活動の連携構築・調整	①保健所の負担軽減 ②地域支援への応援 ③圏域内DHEAT活動の連携構築 ④保健所業務への着地に向けた準備	①輪島市保健医療福祉調整本部の調整 ②輪島市の保健活動の支援(門前地区を含めた市全体を意識) ③輪島市職員の負担の軽減(輪島市・能登北部保健所の職員の思いや方針を共有)
体制	4人:1拠点 医師1、保健師1、ロジ2	5人:一時2拠点(門前) 医師1、保健師2、ロジ2	5人:1拠点 医師1、保健師2、ロジ2	6人:2拠点(調整本部) 医師2、保健師2、ロジ2

保健所に派遣されたDHEATとしての役割の模索

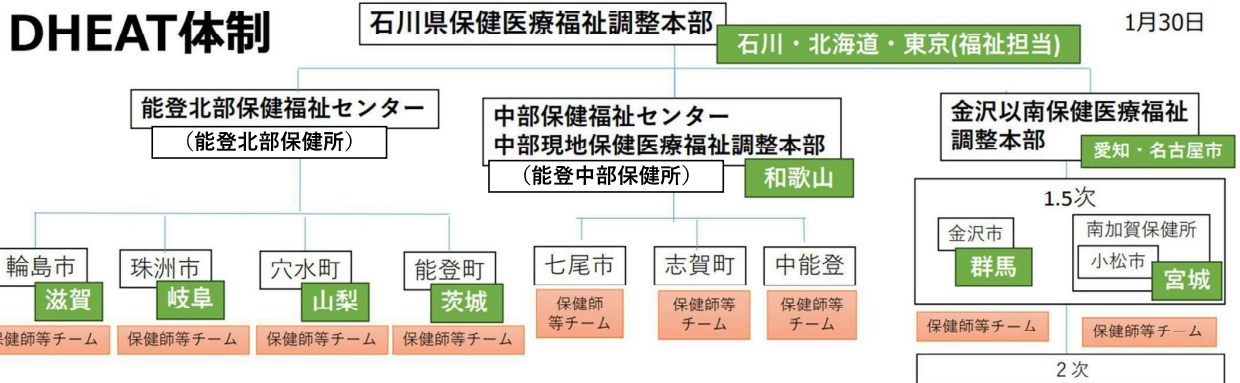
輪島市の支援

# 能登北部保健所 災害支援体制 1/17～



情勢に応じて随時変更していきます。  
名称は便宜上、設定しています<sup>13</sup>

## 1月30日現在の体制



	能登北部保健所				能登中部保健所			1.5次避難所		
	輪島市	珠洲市	穴水町	能登町	七尾市	志賀町	中能登町	金沢市	南加賀保健所 小松市 加賀市	
支援組織	輪島市 保健医療福祉 調整本部 (輪島市役所)	珠洲市 保健医療福祉 調整本部 (健康増進センター)	穴水町 地域医療救護 活動支援室 (保健センター)	能登町 保健医療福祉 調整本部 (能登町役場)	能登中部保健センター					
DHEAT	能登北部保健所：滋賀県				能登中部保健所：和歌山県			栃木県・群馬県		福島県
保健師	13チーム 42人	10チーム 39人	2チーム 12人	5チーム 18人	6チーム 24人	4チーム 12人		6チーム 26人	3チーム 9人	3チーム 12人

# 派遣をとおして強く感じたことももやもや

これが肝！

## 県も保健所も市町も

保健医療福祉調整本部の組織体制（図）・指示命令系統が明確であること  
それをお互いが共有していること。情報連携が円滑にできること。

どうなの??

もやもや

- ・ 市町単位のDHEAT派遣がスタンダードになったら、滋賀県でもこのよ  
うな形になる可能性があるの？
- ・ 2次保健医療圏域で保健所が保健医療福祉調整機能を担う意味は？
- ・ 組織図に位置付いていたらそれで機能を果たせるの？！

派遣された統括保健師4人が振り返り⇒課題を整理  
★保健所が保健医療福祉調整本部機能を果たすことの意義や  
そのための備え等検討した

15

## 3. DHEAT派遣から考える 保健所における保健医療福祉調整本部の意義

早期に  
詳細に

①医療機能等の把握ができる  
(病院、医師会、薬局、訪看などの  
被災状況の把握)

②市町毎の避難所や在宅の状況、福  
祉施設の状況が把握できる  
(地域ごとの被災状況、現状把握)

防ぎえた死と二次健康被害の最小化

- ・ **地域ごとのアセスメント**が可能になる  
(**公衆衛生・地区診断機能**)
- ・ 不足しているところへの資源投入が  
早期に可能になる (まずは医療資源)
- ・ 必要なチームを適材適所に配置できる
- ・ 優先順位がつけられる
- ・ 先を見越した予防的介入が可能

被災市町

(関係機関についても同様)

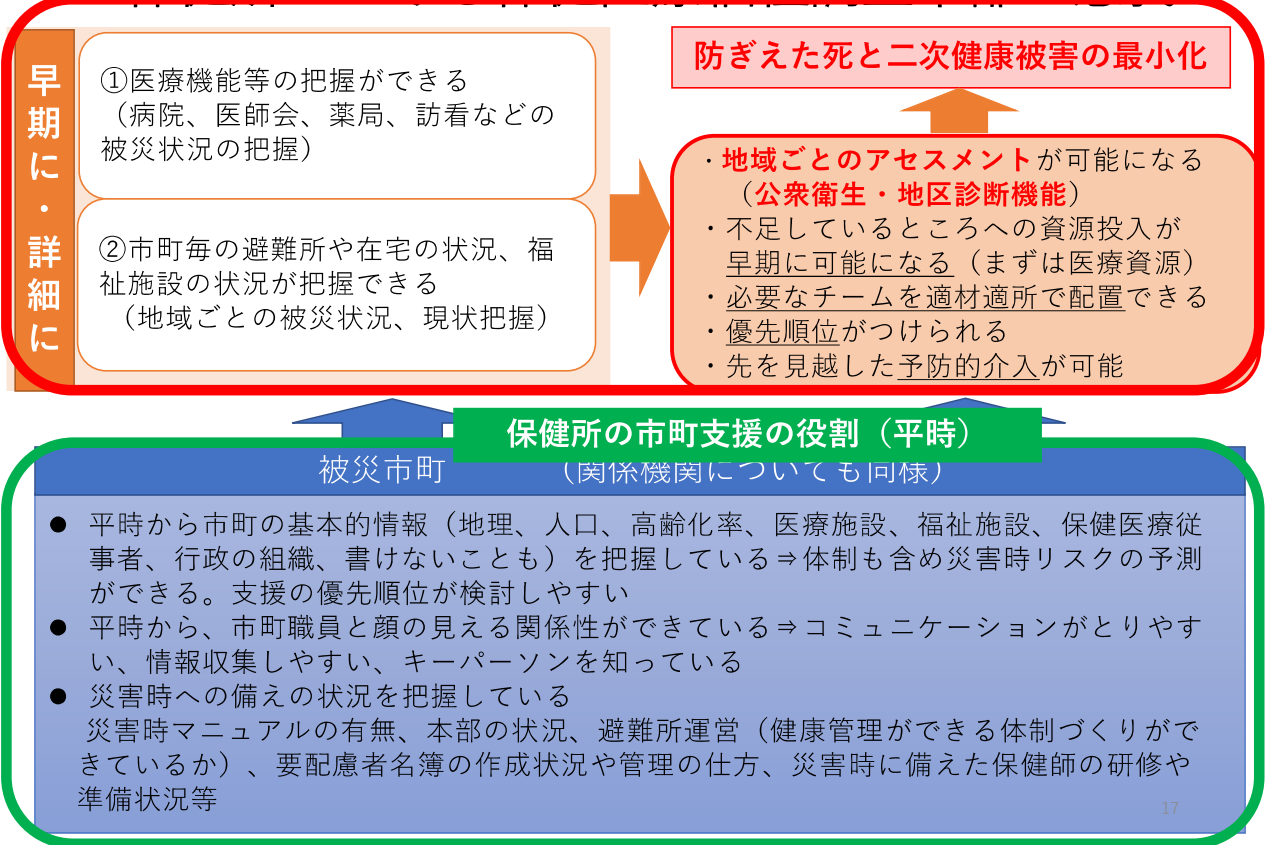
- 平時から市町の基本的情報(地理、人口、高齢化率、医療施設、福祉施設、保健医療従事者、行政の組織、書けないことも)を把握している⇒体制も含め災害時リスクの予測ができる。支援の優先順位が検討しやすい
- 平時から、市町職員と顔の見える関係性ができている⇒コミュニケーションがとりやすい、情報収集しやすい、キーパーソンを知っている
- 災害時への備えの状況を把握している  
災害時マニュアルの有無、本部の状況、避難所運営(健康管理ができる体制づくりができていないか)、要配慮者名簿の作成状況や管理の仕方、災害時に備えた保健師の研修や準備状況等

16



### 3. DHEAT派遣から考える

#### 保健所 | 保健所の市町支援の役割（発災時） 本部署の意義

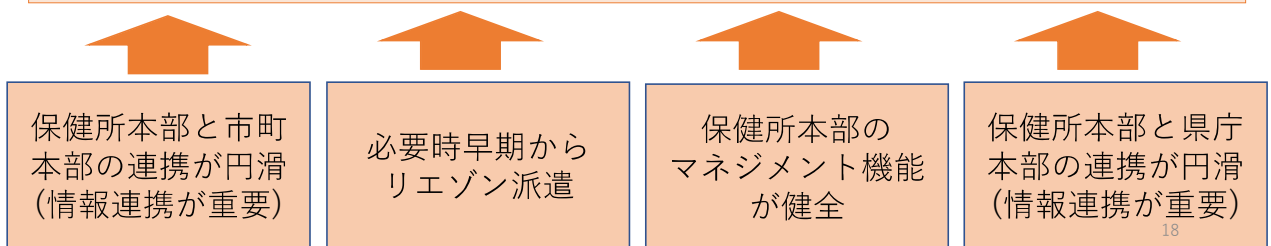


### 4. DHEAT派遣から考える

#### 保健所における市町支援の役割（発災時）

##### 市町災害時保健医療福祉活動のマネジメント機能への支援

- 管内市町の全体把握、災害時地域診断  
圏域を俯瞰して、公衆衛生上の課題を地域ごとにアセスメント
- 優先対策の迅速決定
- 適材適所への支援チームや資源の投入
- 市町に応じたタイムラインの作成支援 先を見越した活動支援
- 受援支援
- 職員の健康管理
- 災害対策本部との連携の推進



## 4. DHEAT派遣から考える 保健所における市町支援の役割（平時）

### 市町の災害時保健医療福祉調整本部体制の構築支援

現組織の見直し、統括保健師の位置づけ、保健師の活動内容、  
災害時保健活動マニュアル等の整備、保健所本部との連絡体制の共有

### 災害に備えた準備について助言、指導

- 受援体制の準備（資料等の整備、活動拠点の想定、要配慮者リストの整備、  
応援者の宿泊場所の確保等）
- 計画的な避難所運営（担当部署と平時から準備物や部屋割り等の確認、感染症用  
の部屋、要介護者の部屋やトイレ、段ボールベッドの配備状況の確認等）
- 災害時の訓練や研修など

### 基本は平時から保健所の役割を果たしていること

管内市町の地区診断がされ、健康課題を把握、社会資源を把握、災害時想定され  
る健康リスクを予測し市町と共有している等 地域保健法第6条、第8条

19



## さいごに

- ・ 滋賀県は初のDHEAT派遣であった。
- ・ 災害対策本部や保健医療調整本部機能の重要性を実感する機会となった。
- ・ 地域により体制は異なるため、派遣先が望む活動を模索しながらの活動であった。
- ・ 今回の派遣をとおし、本県の災害時の本部体制や、連携体制、保健所の役割等、非常に考える機会をいただけた。
- ・ 災害時の保健所における市町支援に必要なこと、それは特別なことではない、平時の保健所の役割を確実にいき、市町の状況を把握していること、信頼関係、連携体制を構築していること、これが大前提であることを改めて実感した。
- ・ これは、関係機関との関係においても同様である。
- ・ 今後は、体制整備と併せて、人材育成が重要と考える。

